

# JAIF

国際結婚を考える会

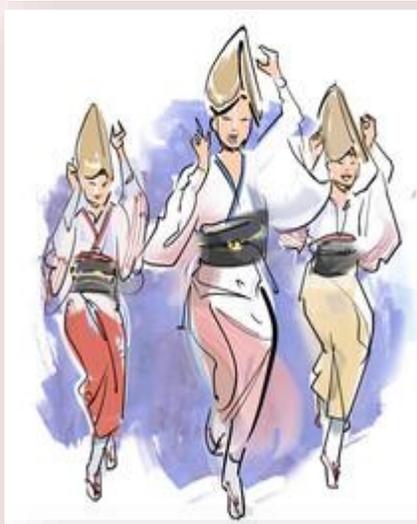
Japan Association of Intercultural Families

会報誌第8号

[www.kokusaikazoku.com/](http://www.kokusaikazoku.com/)

[jaif@kokusaikazoku.com](mailto:jaif@kokusaikazoku.com)

【特集】 『私の人生を豊かにしてくれるもの』



Page	CONTENTS	
	<b>【特集】 『私の人生を豊かにしてくれるもの』</b>	
3	●私の心のオアシス、社交ダンス	小泉美津子（会員）
6	●在日外国人との交流・ボランティア活動	湯浅佳代（会員）
10	●～歌と私～	田中愛子（会員）
13	●スキューバダイビングに夢中	清麻桐(会員)
16	●アメリカで俳句を詠む	ケリング真理子 (会員)
19	<b>«特別寄稿»</b> 上海 55日間のロックダウンで私たちは何を失ったのか	小暮めいりん
23	<b>«国際家族のレシピ紹介»</b> ブルーベリー・グラント (blueberry grunt) は素朴な初夏の味	清麻桐(会員)
26	★海外便りー イギリス・チェルシーフラワーショー	ハワード弘子（会員）
31	JAIFイベント報告	イベント係
32	編集後記   次号予告	会報係

東京生まれ。1982年に東京で結婚してから「国際結婚を考える会」に入会し、1987年に生まれた息子連れて、会の様々な行事や手書きの会報作りに参加する。1996年に渡独し2011年に帰国してからは会の会計係を担当している。

## 社交ダンスとの出会い。 実生活ではドイツのシュタイナー学校に戸惑う。

私が社交ダンスと出会ったのは、はるか昔の20代半ばのドイツ。語学留学でドイツに滞在していた頃、誘われて若者のダンスサークルに参加しました。そのときは「楽しいなあ」くらいの感覚でした。

その後帰国し、仕事、結婚、子育てと生活に追われる日々の中、社交ダンスが頭をよぎることはありませんでした。そして東京で知り合ったドイツ人夫の帰国に伴い、再びドイツでの生活が始まりました。余談ですが、ドイツで一番のカルチャーショックは、二人の子どもが通ったシュタイナー学校の教育方針です。公立の現地校とも違い、まして私が受けてきた日本の学校教育とはまるで違っていたことに戸惑いました。日本ではインターナショナルスクールに通い、英語と日本語の環境にいてドイツ語を知らない長男が、小学3年生でドイツの公立学校に編入することを心配した夫は、落第がない（ドイツでは小学生でも落第があります）、テストがない、教科書がない、宿題がない、情操教育を重視するプレッシャーが少ないシュタイナー学校がいいのではと、入学を決めたのです。私としては、有機農家での泊まり込みの農作業やクラス劇の練習など、教室での勉強以外のことがあまりに多く、「まだこんなことも習っていないの？」と不安になることがしょっちゅうでした。そんなこんなで、夫との意見の食い違いも多くなり、夫婦関係にも溝ができるようになってきました。

## 社交ダンスとの再会。自然に体が動いている自分を発見。

結局25年の夫婦関係は、ドイツの法律に従い裁判所で離婚判決と相成りました。ハンブルグ郊外に購入した家売り、長男は夫と、長女とネコは私と暮らすことになりました。

私はパートの仕事の傍ら、長女の学校のことや税金のこと、今まで夫任せにしていたことがすべて自分の肩にかかってきて、改めてドイツ社会を知るきっかけになり、子どもたちにはつらい思いをさせて申し訳なかったけれど、それはそれでよかったかな、と今は思っています。

小泉美津子（会員）東京在住

そんなあるとき、友達にホテルのダンスパーティーに誘われました。今更ダンスなんて、と思ったけれど興味半分で行ってみました。明るいホールで楽しそうに踊っている人々を、友達と二人ポーと眺めていたら、「踊りませんか」と誘ってくれた男性がいました。私は「上手く踊れないのですが」と言いながら、音楽に乗って自然に体が動いている自分に気づきました。

## ダンスを習おう。掲示板でペアダンスのお相手を・・・

このことがきっかけとなり、私はダンスを習いたいと思うようになりました。住んでいた小さな田舎町にもダンス教室がありました。申し込みに行くと、ペアダンスなので、相手を連れて来てください、と言われました。相手なんていない、どうしよう。そこで地元の新聞の掲示板で相手探しをすることにしました。当時は今のようにインターネットが普及していませんでした。住居探しや友達探しなど、新聞の掲示板に出すことが一般的でした。特に私は身長145cmというチビなので身長差が大きいと困ります。それを強調して探しました。そして見つかった相手は、何とお腹がビア樽のような男性。ダンスは上手だったけど、お腹がちょっとジャマでした。



## 日本でも踊る。ドイツとのシステムの違いにビックリ！

日本にいる親が高齢になり、介護のために帰国することになりました。しかし踊りたい、という気持ちは失せることはありませんでした。当時日本では、「Shall weダンス?」という映画の影響で、ダンス教室やダンスサークルが大盛況でした。昼間は親の介護に明け暮れ、参加した夜のダンスサークルは私の唯一のオアシスになったのです。

まず驚いたのは、日本のダンスサークルの入会の気軽さ。特定のダンスパートナーがいなくても誰でも入会でき、相手を変えて会員同士が踊れるのです。そして服装。

# 私の心のオアシス、社交ダンス

小泉美津子（会員）東京在住

ドイツではダンスシューズを履く以外、練習ではジーンズやラフな服装で踊ることが普通でしたが、日本では、練習でも女性はダンス衣装に着替える人が多く、華やかです。

## 競技ダンスに挑戦 — ずっと、踊り続けたい。

あるとき「競技に出てみないか」と誘われたのがきっかけで、競技の世界へと踏み出しました。練習を重ねて数人のジャッジに評価され、級が与えられるのです。練習にも力が入ります。競技会には独特の雰囲気があります。ワルツやタンゴを踊るスタンダードダンスでは、男性は燕尾服に女性はドレス。ルンバやサンバなどのラテンダンスでは、男女とも軽快な服装という決まりがあります。そして化粧やアクセサリも華やかに、まさに夢の世界です。

ダンスは魔法です。素敵な音楽に合わせて踊ることに集中する。その間だけでも歳を忘れ現実を忘れられる。年齢とかけ離れた服装や化粧をしても平気。そして社交ダンスはストレッチの踊りなので、背筋を伸ばして足腰を柔らかく使う。高齢者にはピッタリの運動です。そして異性と組んで踊る、というのも若返りのメリットがありますね。



湯浅佳代（会員）大阪在住

徳島県出身。関係国は米国。過去NYの製薬企業と日本のPMDA（独立行政法人医薬品医療機器総合機構）にて勤務。趣味は野生動物ウォッチング。  
娘はJAIFのロゴ並びにHPの表紙デザインを制作。

## ボランティア活動のきっかけは、NYCでの恩恵を日本で返したい。

私は2005年から現在2022年に至るまで、同じコミュニティに在住する外国人に日本語を教えることを通じて、お互いの文化を学び合い、又快適に生活できるよう手助けをする目的で設立されたボランティア団体で活動しています。

2005年から2014年までは東京都世田谷区で携わり、その後大阪府高槻市に転居してから現在も地元の団体に属しています。活動の動機は1980年代にNYCで同じような目的の団体に外国人として加入しましたが、この会にはとてもお世話になり、良き友人も作れましたので、その恩恵を今度は日本でのボランティアでお返ししたいという気持ちからでした。

## NYの文化、生活情報から人種差別にあったときの対処まで

マンハッタンにある製薬企業で働いていましたが、仕事上の英語はなんとかこなせましたが、スラングとかジョークとか全く理解できず、また独り身の孤独感もありましたので、この会を見つけた時はすごく嬉しかったです。NYCの会ではマンツーマン方式で英語力の向上を助けるだけでなく、NYの文化の紹介や生活に必要な情報提供も活発にしていました。私の英語の先生は20歳年上の女性でとても教養がある方で、一緒に食事とかメンバーになっている色々な美術館に連れて行ってくれました。



NYを去った後も毎年クリスマスカードのやり取りをし、中学生になった娘を連れてNYに行き20年ぶりに再会しました。お子さんがいなかったの、娘を孫のように扱って下さり、自宅の暖炉の上には私が過去に送った娘の写真を数枚飾ってくれました。ところが10年前に私が送ったクリスマスカードが初めて返送され、電話も通じなくなり、未亡人だった彼女の消息がわからなくなり、それがとても残念です。

湯浅佳代（会員）大阪在住

また、この会はNY生活の質を高めることも目的としており、NYCがサポートしている文化興業やロングランのミュージカルの安いチケット、オフブロードウェイの無料のチケットを優先的にNYCからもらっており、それを利用してボランティア会員達が私達外国人を連れていってくれ、ショーの後カフェに行き、感想とかわからないセリフの英語の部分とかを話し合う時間が極上の楽しみでした。その頃のNYCは治安がすごく悪く犯罪からの身の守り方、人種差別された時の対処の仕方など、親身にアドバイスをしてくれました。

## 新聞配達のベトナム人との心の交流、価値ある100円グラスワイン

帰国して、日本でも同じような機能を持つ団体を自宅のある世田谷区で見つけたので、早速入会しました。フルタイムの仕事をしていましたので、週一回の木曜日の夜7時からの活動に間に合わせる為に夕食は抜きにしていました。

私の生徒はジャーナリストのイギリス人と、A新聞社の新聞配達人の20歳のベトナム人D君でした。その頃日本では新聞配達員のなり手が少なく、A社がベトナムに行ってリクルートしてきた若者の一人でした。夢はお金を貯めて日本の大学で学び、将来はベトナムで事業を起こすことでした。彼はA社提供のアパートでベトナム人若者達と同室の生活をしていて、自炊しながら朝夕の新聞配達をしていました。

唯一の贅沢は回転寿司を食べる時というので、彼の誕生日にサプライズプレゼントとして近くのカウンター形式の少し高級なすし店に連れて行きました。教えた日本語で彼にお寿司を注文してみたらというと、少し彼は戸惑っていましたが、とても嬉しそうでした。

その後クリスマスシーズンになり、一緒にサイゼリヤ（庶民的値段のイタリア料理チェーン）で食事しませんかと誘われたので、親元から離れて2年になり、寂しいのかも知れないと思い快諾しました。注文の段階で今日は僕が奢りますから好きなものをどうぞ、と言ってくれました。申し訳ないので少な目に注文しましたが、余分に色々オーダーしてくれました。100円のグラスワインで乾杯しましたが、その味は年代物の高級ワインよりずっと美味しく感じられました。



湯浅佳代（会員）大阪在住

## スピーチコンテストで自身が学び、歌を通じての日本語学習に感動

その後D君が東京での最後の生徒となり、私は関西に転居しました。高槻市はクスクスという名の国際交流団体が20年前から活動していて、引っ越ししてからすぐ入会しました。

デンマーク人、中国人と二人の生徒を持ちましたが、来日5年後の中国女性のKさんは特に日本語の上達がすごく早く、会で行う日本語スピーチコンテストで故郷の町の人々の暮らしをテーマにしたスピーチで特別賞をとりました。2カ月ぐらい特訓をした甲斐がありました。おかげで私は、彼女を通じ中国の地方都市の暮らしぶりを知ることが出来ました。

その後水曜日クラスをまとめる責任者となりました。私のクラスにイタリア人の生徒がいて、歌を通じても、日本語学習になると思い、JAIF西日本会員の声楽を勉強されたSさんに来て頂き、皆でサンタ・ルチアを日本語で練習しました。最後にSさんがイタリア語でサンタ・ルチアと原語でアベマリアを歌って下さいました。他の教室からも数人聴きに来ていました。教室が一瞬オペラハウスのようになり、美声に皆が感動しました。

会場が「踊る阿呆にみる阿呆、同じ阿呆なら踊らにゃ損々♪」で沸く。



会の20周年行事で私のクラスで何か寸劇、ダンス、コーラス等のエンターテイメントを企画してほしいと頼まれ、この行事のトリで、阿波踊りをしたいとの私の提案に実行委員達がすごく喜びました。

湯浅佳代（会員）大阪在住

問題はクラス内で踊れるのは私だけでしたし、私は女踊りしか踊れないことでした。仕方なく徳島出身の元会員女性に女踊りを指導してもらい、私は阿波踊り同好会を検索し、京都まで指導を受けに行きました。

クラスの皆にはユーチューブの踊り方をメールし、自宅練習してもらい、合同練習の為、会場を借りて猛練習をしました。又クラスに器用な方がいて編み笠は手作りし、踊り衣装もそれらしく見えるように工夫してくれました。当日は他のクラスの学習者達が舞台に飛び込みで踊り、かなりの方々が観客席でも踊り、会場一体が踊る阿呆になりました。阿波踊りには国境がないのだと改めて感じました。ちなみに東京にいた時、JAIFの定例会でも、阿波踊りのイベントを企画してほしいといわれ、私が指導したこともありました。



<https://youtu.be/b8hzoPyW-Uc> 当日の動画です。

現在、私はもう一つのボランティアにも属していて、そちらは日本文化に触れる事を重点にしています。高槻は工場が多く、機械相手の仕事で日本人との会話とか文化的触れ合いが少ない研修生の学習者が多いです。学習者を、時には自宅に招いて日本の家庭の味も知ってもらっています。ボランティアを通じて各国の色んな人と知り合い、学ぶことが多く私自身とても豊かな体験をしています。

二つのボランティアグループで今後も地道に海外交流をしていきたいと思っています。

田中愛子（会員）京都在住

オーストラリア人の夫とは、彼が京都大学に留学中の1982年に京都で出会い、そのまま京都に定住している。33歳と30歳の娘がおり、それぞれ東京と大阪で暮らしている。孫は10歳から3歳までの4人。

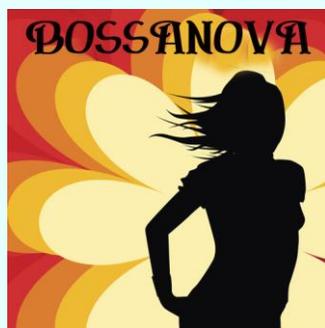
## 幼い頃から宗教音楽に親しみ育つ

私が人生で初めて人前で歌ったのは、幼稚園の年長組のときのクリスマス降誕劇です。3人の博士がイエスの誕生を祝いに来たシーンでの独唱です。幼い頃は並外れて気が弱く、人と話すのも苦手なくらい内気な性格だった私が、不思議にもこのときは大勢の観客の前でさらっと歌えたのを記憶しています。

私の父は牧師で母は教会のオルガニストだったので、私は小さい頃から教会（宗教）音楽にどっぷり浸かりながら成長しました。小学生の頃は妹と讃美歌の二重唱を練習し、母のオルガン演奏で時おり教会で披露したりしていました。

その一方で、音楽好きの姉の影響で、クラシック音楽以外の洋楽にも触れる機会が多々ありました。初めての洋楽コンサートは、中学3年のときに姉と行ったジェームス・テラーのコンサートでした。おませだった私は少しヒールのあるロングブーツを履いてわくわくしながら京都から大阪のフェスティバルホールへ出向いたのですが、慣れないブーツで足元が不安定になり、たくさんの人の前でコンサートホールの階段から転がり落ちてしまい、その恥ずかしさがあまりにも強かったために大好きだったジェームス・テラーの演奏のことはあまり覚えていないのは何とも残念なことです。

## 多様な音楽ジャンルの中からボサノバに魅せられて



さまざまな洋楽の中でも特に私の心を強く掴んだのは、中学2年生のときに出会ったボサノバという音楽でした。それ以来、クラシック、ジャズ、ポップス、宗教音楽など他の音楽にも親しみながらも、常にボサノバがど真ん中であって、歌ったり聴いたりしていました。そして、30歳を過ぎた頃に、やはり音楽好きの姉の夫に誘われて入ったボサノババンドで究極の恥ずかしがりやの私が、なんとボーカルとして初めてステージに立つことに！！

田中愛子（会員）京都在住

中学生のときに聞いたボサノバは、アメリカ経由で日本に入って来たものだったので歌詞はほとんどが英語だったのですが、バンドに入ってから本場ブラジルのポルトガル語で歌うようになり、アメリカのジャズ風ボサノバではなく、純粹なブラジル音楽にどんどん引き込まれていくようになりました。

下の子がお腹にいるときも大きなお腹を抱えて、3歳の娘の手を引いて、友人のギタリストが作曲し、私が日本語や英語で歌詞をつけた曲を録音しに、スタジオに通っていました。また、子育ての悩みで毎日泣き暮らしていたときも、泣きながらリハーサルや本番会場に向かい、本番直前に何とか涙を拭いてステージに立ったこともありました。

もともと人前に出ることが苦手な私は、ライブをすること自体がプレッシャーでしたし、緊張のあまりライブが残念な結果に終わることも何度かありました。なのに、なぜやめないのか？それは多分私の中にそうしたいという本能のようなものがあるからです。一人でこっそり歌っていてもいいはずなのに、好きな歌を自分の表現で誰かに聴いてもらって何かを共有したいと思うのです。常にその本能と本来の人前に出たくないという気持ちがせめぎ合う中で、やりたい気持ちが勝つというのがずっと続いていて、現在まで細々とですがコンスタントにライブ活動が続けてきました。

## その言語の背景を感じながら歌う。音楽は呼吸のような私の一部

私はオーストラリア生まれの夫と結婚当初から日本で暮らしています。夫の日本語がとても流暢で夫婦の会話はほとんどが日本語です。でも、私が英語で歌うとき、それが英語のネイティブスピーカーの夫にどのように届いているかを聞いてもらって表現を確かめます。英語で歌うとき、私は英語の文化の中にどっぷり浸かっている気がします。ポルトガル語やスペイン語で歌うときは英語ほどではないにしろ、やはりその言語の背景などを感じながら歌います。それはとても楽しい小旅行のような感じです。そして、日本語で歌うときは、ふるさとに戻って来たという安堵感をもって歌えるのです。



若かりし頃

田中愛子（会員）京都在住

## Beautiful Beautiful Songs ～歌が生まれてる～

そして、私の60余年の人生に歌が与えたくれたさまざまな経験の中で、特に心の奥深く刻まれたことは、親しい人たち3人の最期を私のつたない歌で見送ることが出来たことです。

40歳過ぎで難病で亡くなった友だちからは、生前、自分が旅立つときのためにと私にある曲の録音をお願いされました。彼女が好きだった大貫妙子さんの Beautiful Beautiful Songs ～歌が生まれてる～という曲です。彼女は昏睡状態の中でもきっと私の歌を聴いてくれていたと思います。

死は生の続きであるとしたら、歌はその間をつないでくれていたかもしれないと感じています。そして、私も誰か親しい人の歌でこの世とお別れしたいなと思います。

♪ 人が出会いさよならするとき  
どんな歌でなごりを惜しむでしょう  
Beautiful Songs 歌が生まれてる  
Beautiful Songs 歌が聞こえてる♪  
(作詞：糸井重里)



法然院でのコンサート

<https://m.youtube.com/watch?v=lgE0ywEYUAE&feature=youtu.be>

清 麻桐（会員）アメリカ在住

留学先のマサチューセッツ州で出会ったアメリカ人の夫と2002年に結婚。2018年から国立自然史博物館に勤務。専門は無脊椎動物学・分子生物学。家族は夫と犬一頭。ダイビングの他は、料理と旅行が趣味。

## ずっと気になっていたダイビングに一機にのめり込む



留学先のアメリカの大学では体育の授業でスキューバダイビングを選択できるチャンスがあったり、沖縄旅行中にはダイビングショップの近くを通りかかっては気になっていて、博士研究員時代に住んでいた海から遠い町にさえもダイビングショップがあるのに驚き、シュノーケリング中、はるか下を悠々と泳いでいるダイバーを見かけて羨ましく思い...とダイビングを始める機会はこれまで何度もありました。漠然とやってみたくははずっと思っていたが、周りにあまりダイバーがいなかったせいかな今ひとつ行動に移せませんでした。

ところが、国立自然史博物館では職業柄(?)まわりにダイバーがやたらと多く、『科学ダイバー養成プログラム』もあることからダイビングやりたい熱が燃え上がり、3年前、住んでいる郡のレクリエーション課が運営しているダイビング講座を受講しました。講座で基礎となるオープン・ウォーター認定を取った後すぐにアドバンスド・オープンウォーター認定を取り、地元のダイビングクラブに加入しました。講座でお世話になったインストラクター達とは今でも親しくお付き合いしています。いつか夫にも潜れるようになってもらい、二人一緒に潜りに行くのが夢です。

## 人造湖でも楽しめる工夫がたくさん。でも海のだいが味は格別。

アメリカのダイビング文化で日本とちょっと違う点は、石材を切り出した後の石切場に残った巨大な穴に水を溜めた人造湖が各地でダイバーに利用されていることです。

# スキューバダイビングに夢中

清 麻桐（会員）アメリカ在住

海から遠い州でも近くの人造湖に行けば手軽にダイビングをすることができ、海まで行かなくてもダイバー認定証を取ることができたり、潜水技術を磨くことができたりします。生き物といえば、ブラックバスやブルーギルなど数種類の淡水魚しかいないのが普通で、海に比べると面白さではかないませんが、乗り物を沈めて沈船の内部に侵入する練習ができるようにしたり、あちこちに人形などを沈めて潜って楽しめるようになっています。

2019年は人造湖に3回通い、チェサピーク湾に注ぐパタクセント川の河口で潜って牡蠣採集をしました。

「今年こそは海で潜ろう」と思っていた2020年は新型コロナのせいでわずか3ダイブしかできませんでした。去年の2021年はノースカロライナ州ボーフォート沖で沈船ダイビングを、そしてフロリダ州キーラーゴの州立海洋公園で亜熱帯の海を楽しんできました。

アメリカ東海岸に住んでいて海に近いのになぜ遠くまで潜りに行くのかというと、北米大陸東海岸はノースカロライナ州にあるハッテラス岬の北側までラブラドル海流という寒流の影響を受けるため深いところでは海水温が比較的低く、ドライスーツなど低水温に対応した機材とそれを使いこなす技術が必要になるからです。地元で5月末から10月末まで潜れるように、厚さの違うウェットスーツを既に3着持っていますが、今年は清水の舞台から飛び降りる気持ちでドライスーツを購入する予定です。



牡蠣取りのバディと。大漁大漁

清 麻桐（会員）アメリカ在住

## 癒しとともに、水圏環境や生き物を知る実体験が貴重

光あふれる美しい海の中を人魚のように泳いで癒される、スリリングな沈船や洞窟探検に挑戦するなどダイビングの魅力はたくさんあるのですが、私にとってはダイビング技術を学ぶ面白さ、それからスキューバ機材なしでは触れられない水圏の環境を知り、生き物を知る面白さが大きな魅力です。

2020年には水中カメラと耐圧ケースを買って水中写真をぼちぼちと始めました。全体的に青くて魚の背中ばかり小さく移っている写真が多くてまだまだ下手ですが、後で生き物の種類を調べる役には立っていて、おかげでフロリダの海水魚には結構詳しくなりました。

今年帰国できたら日本の海へ、できれば憧れの沖縄の離島に行ってみたいのですが、それがだめでもローカル線で行ける日本海や瀬戸内海へ潜りに行きたいなと思っています。

神秘的な海中散歩写真、みなさまにも涼しんでいただけたらと思います。



# アメリカで俳句を詠む

ケリング真理子（会員）アメリカ在住

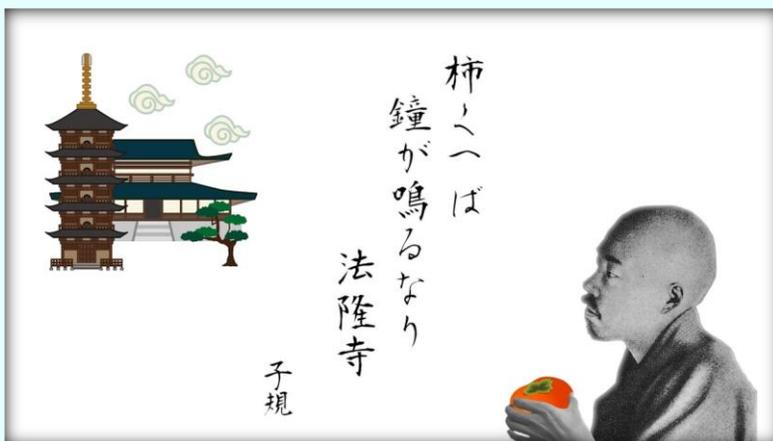
留学先のフロリダで出会ったアメリカ人の夫と1984年に結婚。フロリダ、カリフォルニア、ワシントンと移り住み、2016年、24年間暮らしたシアトルからスポケインに引っ越す。長年臨床検査技師として働いてきたが、現在は引退してもっぱらハイキングや庭仕事などに時間を費やしている。一人息子はフロリダ在住。

## 初心者だが、課題の「季語」に向かい合い特選になったことも

ちょうど2年半前に日本の友人に「真理子も俳句やってみない？」と突然誘われました。私は、俳句などとは全く無縁の生活をしていたので「日本語の怪しい私でも大丈夫かな？」と聞いたところ「3歳児でも作れるよ。」との返答。それならば、と安心してその友人の中学時代の後輩で俳人の横田さんが主催する「萌え木通信句会」に参加させていただくことにしました。これは、コロナ禍のためにオンラインでの句会でした。

俳句といえば、「柿食へば鐘が鳴るなり法隆寺」という正岡子規の句や「古池や蛙飛び込む水の音」の松尾芭蕉の句はみなさまご存知でしょう。俳句は5・7・5の文字数で作る詩です。川柳も同じく5・7・5ですが、俳句の場合なくてはならないのが「季語」です。春、夏、秋、冬とそれぞれの季節に対応した「季語」が決められていて、これらは、昨今の地球温暖化で春頃にみられる草花の種類が多少変わってきたので新しい季語を使わねば！などと勝手に変えることはできません。

毎月課題の季語が4、5個会員により選ばれ、それぞれ決まった日時までに5句まで先生に提出（投句）します。数日後に作者の名前を伏せた全ての俳句のリストが送られてくるので、それぞれ気に入った句を10句選び（選句）、またその中から秀作と思われるものを選んで寸評を加えます。こうした選句ののちに毎月の句報には、作者名と共に全ての句が発表されるのです。



# アメリカで俳句を詠む

ケリング真理子（会員）アメリカ在住

私は初めは俳句の中の漢字の難解なものを読み方や意味が分からず、それらをまず調べなくてはならなかったのが、結構選句に手間取りました。友人は、最初の数ヶ月はわざわざ難しい漢字にフリガナを付けたリストを送ってくれたのでとても助かりました。

始めてみると「3歳児でもできる」と言われた通り、私にも稚拙ながらも俳句らしきものができたではありませんか。それに毎月初心者の私の句を気に入ってくださる方もいらっしゃった。たまには、特選にも選んでくださり、嬉しい限りでした。

**一時帰国の私のために吟行日程が組まれ参加。  
俳人の誰もが第一級の俳句を生む可能性を持っている。**

俳人の飯田龍太先生は「昨今、切実に感じることは、第一級の俳人は一世に何人もありはしないけれども、第一級の俳句は、いついかなるときも、常に存在するという。そして作者の有名無名にかかわらず、俳人の誰もが第一級の俳句を生む可能性を持っているということ。端的に言えば、第一級の俳句と、第一級の俳人とは別もの、という考えであり、そこに俳句の、他の文芸との截然(せつぜん)としたちがいがあのではないか、と知っている。」とおっしゃっています。

日本でコロナ感染が落ち着いてきたので、3年ぶりで吟行(ぎんこう) (俳句、作歌などのため、同行者が野外や名所旧跡に出かけて行くこと)が行われることになりました。先生に一時帰国することをお知らせすると、私が参加できるように吟行の日程を組んでくださいました。場所は名古屋で、参加者は総勢11人。日泰寺、松坂屋の初代社長、伊藤次郎左衛門祐民が構築した聴松閣(ちょうまつかく)迎賓館(げいひんかん)や別邸である揚輝荘、その庭園など好きなのところをそぞろ歩きながらノートに印象的なものなどを書き留めていきます。1時間ほどたってから、皆で貸切のレストランに集合してランチをいただき、その後それぞれ短冊様の紙に5句、名前は書かずにしたためるのです。



# アメリカで俳句を詠む

ケリング真理子（会員）アメリカ在住

後は、集まった句を手分けして番号をつけた紙に10句ずつ清書します。全部清書し終わると順繰り皆に回して、それぞれ気に入った10句を選び別の紙に独自の番号とともに記し、これには選句者である自分の名前を明記します。最後に先生がそれぞれの選句を読み上げますが、選者は特選のコメントをします。2度目にもう一度全て読みあげますが、その時になって初めて作者は名乗りを上げるのです。

## 日常のほんの小さなことにも発見が。

2年間お名前は知っていても実際にお会いしたことのない俳句仲間に来て話すことができ、作者と作品を関連づけることができ、楽しい経験でした。先生は名古屋の方なので、毎年名古屋のどこかで吟行を行うそうですが、将来帰国の際にはまた参加させていただきたいと思っています。

私は俳句と知り合ってから、日常のほんの小さなことにも楽しみを見いだすことができるようになったと感じています。また俳句独特の季語を学ぶに従って、日本人が自然といかに密接な関係を保ってきたかと感銘を受けています。自然が大好きでハイキングが好きな私にちょうど良い趣味を見つけました。オンライン句会は残念ながら終了してしまいましたが、今後も私なりに俳句作りを続けていくつもりです。最後に吟行でよんだ私の句をご笑覧ください。



藻の花のその小ささに驚けり

帰省して羽を休める場所探し



特別寄稿 JAIF会員小暮朋子さんの娘さん、小暮めいりんさんが上海より「ロックダウン」体験を寄稿してくださいました。

## 上海55日間のロックダウンで私たちは何を失ったのか

小暮めいりん 中国上海在住

日本人の母、マレーシア人の父を持つ。クリエイティブディレクター。幼少期をマレーシアで過ごし、大学は北京に留学し美術を学ぶ。日本に帰国し、歌手活動\*の後、電通を経て、2021年6月から上海の自転車複合ショップ「RE而意」勤務。

上海で猫1匹と暮らす。

\*編集部注：グループくもりなにてボーカルを担当

[https://youtu.be/48xXW\\_iqrjc](https://youtu.be/48xXW_iqrjc)



### 抑圧された日々、解放を指折り数えては裏切られ

新型コロナウイルスの感染急拡大を受け、2022年4月1日から上海市で実行された前代未聞の55日間ロックダウンと言う体験を通して、今思うことは、これまでの人生の中で体験してきた数多ある出来事の中で、ダントツに抑圧された日々であったと言うこと。

“[ショーシャンクの空に](#)”という、脱獄の映画を隔離中に見たが、囚人に共感できるシーンばかりで、改めてここは刑務所なのだと感じた。一番辛かったのは“終わりが見えないこと”だった。14日と言われれば、指折り数えてその日はやってくる。しかし当初4日で解放と言われ、その次に15日、1ヶ月、と期待しては裏切られることを何度も繰り返し、心が蝕まれていった。

### ようやく配給が届き、マンション内での助け合いが活発に

解放されないと悟った時の絶望と、食料が尽きるのに買えないという不安は、今までにないものだった。隔離前に多めに買った卵は贅沢品になっていき1日1個だけと決めた。政府の配給が始まらず数日分の備蓄しかなかった住民たちは焦り、食材の卸し業者に掛け合い共同購入が始まった。値段が通常よりだいぶ高くなっていたが、悠長なことは言っていられなかった。切羽詰まった状態が数日続いたあと、配給が始まり食糧危機は脱した。同時にマンション内では助け合いが始まり、“ゴマ油を分けてくれ”“蕎麦と交換したい”“朝トレ参加者募集”など近所付き合いが活発になっていった。

## 自由に出入りできる守衛、「特権」は人を変える

しかし隔離が長引くにつれマンションの守衛が、まるで牢屋を見張る看守のように住民を監視し始めたのだ。私の住むエリアは9棟のマンション群で構成されていて、一つの門から入る仕組みになっている。マンション群の中は自由に歩けるが、鉄門から外へは一步も出られなかった。場所が良いということもあり、かなり年季の入った古い（ボロい）マンションだが家賃も高く、並んでいるのは高級車ばかりで、それなりの人が住んでいる。一方、普段はマンションの地下の部屋に住んでいる守衛たちは、日頃の鬱憤を晴らすが如く権力行使するのだった。

守衛たちは自由に門の外へ出入りできるので、髪の毛を切りに外出したり、またタバコを買ってきて住民に高く売り付けたりなど、特権とは人を変えるのだと痛感した。助け合っていた住人同士も次第に言い争いが増えていった。政策を支持する年配者と、政府のやり方に疑問を持ち、早く仕事を再開したい若者。両者の真ん中には、深い溝が生まれていった。

## 頼れるのは近くの他人。

### この困難を一緒に乗り越えた仲間と猫の存在



ネギは再利用

そんな隔離の中で、良かったことといえば、隣人と仲良くなったことだ。「遠くの親戚より近くの他人」とはまさにその通り。物流が完全にストップしていたので、日本の両親も北京の友人も私に物資を送ることは不可能だった。頼れるのは隣人のみ。

はじめは洗剤だった。長引く隔離と日々の料理でなくなってしまった食器洗い洗剤。最後の5mmほどは薄めて使っていたが、油物が落ちずイライラ。ついに隣の住人に“洗剤を分けてくれ”と頼んだ。そのお礼に、コーヒーを淹れたポットを差し入れた。

そんな感じで小さな交流がはじまり、物々交換や情報交換をしながら、お互いの家を行き来するようになり一緒に食事をしたり、お酒を飲んだりするように。

# 上海55日間のロックダウンで私たちは何を失ったのか

小暮めいりん 中国上海在住



隔離から30日目に初めて一緒に食事をしたが、思い返すと“人と食卓を囲む”という行為が1ヶ月ぶりで、なんだか感極まるものがあった。自由になった今も、交流は続いている。

きっと彼らとは長い付き合いになるのだと思う。この困難を一緒に乗り越えた仲間として。

忘れてはいけないもうひとりの友は、我が家に去年から住んでいる白い丸々とした猫パオズだ。年中自宅隔離されている猫から学ぶことは多く、イライラするときは猫を愛でて自分を律することも。自分以外の生命がそこに存在する、ということの尊さにも気がつくのであった。

これまで積み上げた“信頼”を上海はどう挽回するのか。  
自身の目でみてみたい。

隔離55日目。私たちにはついに解放される。鉄の門から外に出ると、まるで隔離などなかったかの様に街は人の営みで溢れていた。あんなに手に入れたかったバナナが普通に軒先で売られている。まるで、隔離は夢だったのかと思うぐらいあまりにも普通の生活がそこにはあった。



陰性であることの証明コード



アパートの敷地内でのPCR検査

# 上海55日間のロックダウンで私たちは何を失ったのか

小暮めいりん 中国上海在住

しかし、心はどうだろうか。誰もが心に傷を負った気がする。それはふとした瞬間に思い出してしまう、痛みを伴ったものだ。何も悪いことをしていないのに、無実の罪で投獄されたといっても過言ではない日々。伸びた髪の毛を切り、ネイルを施し、友達とお酒を飲んで語り合う。そんな数ヶ月前と変わらない日々を過ごしているつもりで、それはもう全く違う日々なのだと感じている。

今日で解放30日目。上海は必死に元の姿に戻ろうとしている。海外から中国へ入国する人の隔離期間も短くなった。だが、街は空き物件が目立ち、外国人は帰国し始め、他の国への移住を見据える中国人もちらほらいる。

日本に長く住んでいた上海人の友人はこう言った。「上海は30年間かけて積み上げたものをこの数ヶ月で無くしてしまった」それは経済ということではなく“信頼”だ、と。ここから、どう挽回するのか、もう少しこの目で見てみたいと思う。

と、その前に一度日本に帰って羽を伸ばしたいと思っているのだが、飛行機代が片道20万円という高い壁が立ちだかっている（笑）。



他の都市に行くのに必要な通行証

ロックダウン下の上海 外灘 (バンド)



## 《 国際家族のレシピ紹介 》

### ブルーベリー・グラント (blueberry grunt)

#### は素朴な初夏の味

清 麻桐 (会員) アメリカ在住

私の旅の楽しみの一つに、「旅先で土産物屋や本屋に入って地元料理の本を探す」というものがあります。いいお土産になりますし、訪れた土地の文化に触れ、ページをめくって旅の思い出に浸り、旅行中に食べて気に入った料理を帰ってから再現できるかもしれません。今日ご紹介するおやつは、学生時代カナダでのフィールドワークが終わって、自分へのご褒美として立ち寄ったプリンスエドワード島の観光案内所で買った「Favourite Recipes of Old Prince Edward Island」に載っている「ブルーベリー・グラント」(blueberry grunt) という素朴なおやつです。

ブルーベリーソースを煮立てたところにスコーン風の生地をちぎって落とし、蒸し煮にしたもの。アメリカのブルーベリーのおやつというとパイやケーキ、マフィンが普通ですが、ブルーベリー・グラントは鍋一つで簡単にできて砂糖も脂肪分も控えめ。一度この本を見て作ってみて以来、見た目はちょっと不細工でも、毎年ブルーベリーの季節になると夫からリクエストが来る我が家の人気料理です。

ウィキペディア ([コブラー - Wikipedia](#)) によると、果物の「グラント」はカナダの沿海州とアメリカ合衆国のニューイングランド地方で見られるおやつ「コブラー」の一種で、果物が鍋でぐつぐつ煮えるところからグラントという名前になったのだそうです

(おまけ) こちらは英文になりますが、[ガラ人](#)にルーツを持つ料理研究家ヴァレリー・アーウィンが米国公共ラジオ放送のために書いた「ブルーベリー・ダンプリング」のレシピ ([Blueberry Dumplings The Star Of Lasting Summer Memories : NPR](#)) です。レシピの元はサウスカロライナ州チャールストン出身のアーウィンの大伯母で、生地ショートニングが入っていて、団子を大きく作る以外はブルーベリー・グラントのレシピによく似ています。



## ◀ 国際家族のレシピ紹介 ▶

### ブルーベリー・グラント (blueberry grunt) は素朴な初夏の味

清 麻桐 (会員) アメリカ在住



#### ※ 材料 (4人分)

ブルーベリー	4カップ
水	1カップ
砂糖	1/2カップ+小さじ1
小麦粉 (ふるって計量)	2カップ
ベーキングパウダー	小さじ4
塩	小さじ1/2
牛乳	3/4カップぐらい



1. ブルーベリー、水、砂糖  
1/2カップを大きめの鍋に  
入れて火にかき、煮立てます。



★ソースができました



2. 1を火にかけたら小麦粉、  
ベーキングパウダー、塩、砂糖  
小さじ1を混ぜ合わせ、牛乳を  
加えてヘラでまとまるまでさっ  
くりと混ぜます。

## 《 国際家族のレシピ紹介 》

ブルーベリー・グラント (blueberry grunt) は素朴な初夏の味

清 麻桐 (会員) アメリカ在住



★生地ができました



3. 1が煮立って砂糖が溶け、煮汁が出てきたら生地を大きじくらの大きさにスプーンでちぎって浮かべ、蓋をして15分蒸します。



★できあがり



そらちゃん、もうちょっと待とうね。

## 海外便りー イギリス・チェルシーフラワーショー

ハワード弘子（会員）イギリス在住  
ガーデンデザイナーたちの競演展示のすばらしさ



### ワイルドフラワーが主役の庭

最近では、日本でも園芸はガーデニングという英語が身近に使われているようで、ガーデニングといえば、イギリスの庭を思い浮かべる人が多いのではないかと思います。そのイギリスでは、毎年春から秋まで各地で園芸展が開かれています。やはり一番多くの人々の関心を集めるのは、毎年春にロンドンのチェルシーで開かれる、英国園芸協会主催のチェルシーフラワーショーです。最初に開かれたのは1832年で、その当時はガーデンショーと呼ばれていたようで、今でも訪れる人々の関心は、ガーデンデザイナー達による庭の展示です。茶室に、紅葉、苔むした庭石の日本庭園が展示されこともあり、東洋の美として注目され、その年の最高賞に選ばれたこともあります。

展示される庭は、何年も前からその場所にあるように見えますが、わずか3週間くらいの準備期間で作って、フラワーショーの開催期間は5日間です。因みに会場は、公園や植物園ではなく、チェルシーホスピタルと呼ばれる、高齢の退役軍人の住居と付属の医療施設の広大な敷地を借りて開催されます。

## 海外便りー イギリス・チェルシーフラワーショー

ハワード弘子（会員）イギリス在住

私は、特に園芸愛好家ではなかったのですが、我が家の庭の手入れをするうちに、参考のためにテレビの園芸番組を観るようになりました。チェルシーフラワーショーは毎年テレビでも放映され、一度は行ってみたいと思っていました。数年前、クリスマスプレゼントに入場券をもらい実際の展示を見て以来、ぜひ来年もまたと毎年展示場に行くようになりました。

### 2022年春、16万人が来場。今年の金賞は？ 瞑想の庭イギリス版に感銘。



サンクチュアリーガーデン（静かな自分だけの場所）

2020年は年が明けるとコロナの感染が広がり始め、もちろん中止になり、翌年2021年は春の開催を延期して、秋ならコロナ感染の状況が落ち着くだろうという想定のもとに、9月末に初めての秋のフラワーショーとなりました。今年はまた春5月最終の週、火曜日から土曜日まで開かれました。

## 海外便りー イギリス・チェルシーフラワーショー

ハワード弘子（会員）イギリス在住

はじめの2日間はフラワーショーを主催する園芸協会の会員と各界の有名人の招待客だけで、一般の入場はその後の3日間だけです。開催期間中約16万人が訪れたそうですが、私が行ったのは、最終日、土曜日ということもあり一番入場者が多かった日のようでした。電車の中で、下車駅に近づくほど周りに花模様の服を着た人が多く目についたのですが、フラワーショーにはつとめて花模様の服を着て行くのだそうです。会場最寄り駅周辺は世界の有名ブランドの店が並んでいる所で、それぞれ店の入り口やショーインドーは花で飾られていて、通る人の目を楽しませてくれました。



金賞の庭・ビーバーのダム

庭の展示は39もあり、庭の様式によっていくつかの部門に分けてあり、ガーデンデザイナー達が限られた広さの地面に、白紙に絵を描くように、花、草、木、岩や水、その他の園芸素材を使って作り上げたものです。それぞれ主題を決めて作られた個性のあるものでした。これらの庭に植えられた花は、ガーデンセンターで売っている定番の花より、野草の類が多く、蝶や蜂達も大切な脇役です。今年金賞に輝いたのは、田舎の家の庭の片隅にあるような、茂みに囲まれた雨漏りのしそうな古い物置小屋、その横には小川が流れ、枯れ枝でビーバーのダムも作られている庭でした。

## 海外便りー イギリス・チェルシーフラワーショー

ハワード弘子（会員）イギリス在住

これが金賞の庭？という声もありますが、私は自然あふれるこの庭を見て、一瞬、ロンドンのど真ん中大勢の人が行きかう展示場であることを忘れて、侘び寂に通じるものを感じ、瞑想の庭イギリス版、すばらしいと思いました。

屋内会場は、世界の様々な花や植木が展示されており、盆栽や紅葉、ミニ日本庭園もありました。また、フラワーショーの会場内には、ストリートフードの店や、カフェ、園芸用用品や工芸品、お土産を売る店が立ち並ぶ通りも作られ、木立に囲まれたピクニックの場所もあり、春の一日を充分に楽しむことができました。

チェルシーフラワーショーの会場内は、今でも限りなくこの国らしさが残る雰囲気を感じました。来年はどんな庭が見られるか、また次の春を楽しみにしています。

\*\*\*\*\*

参考) チェルシーフラワーショーの様子動画はこちらからご覧ください。

[https://www.youtube.com/watch?v=N\\_IYh4nNTfY](https://www.youtube.com/watch?v=N_IYh4nNTfY)



日本の庭木の展示

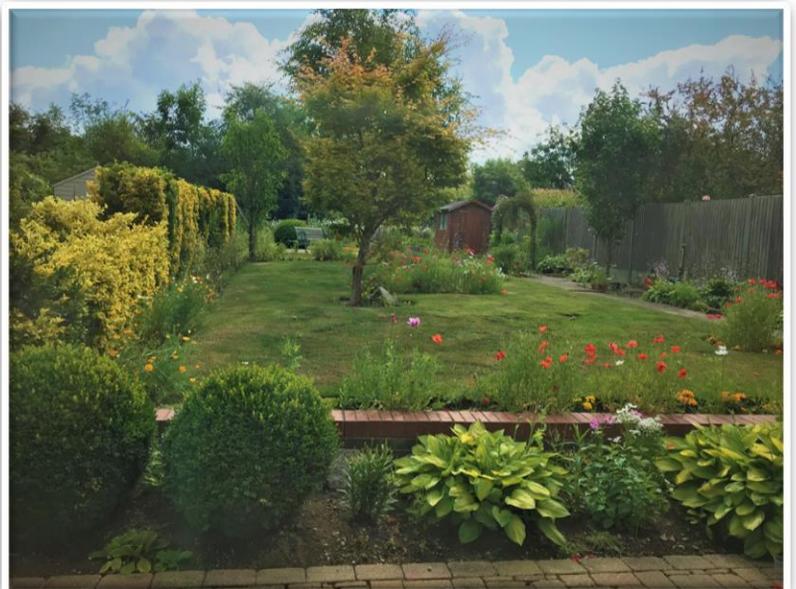
海外各地でのイベントや面白情報などみなさまもぜひ気軽に投稿してくださいね。

## 海外便りー イギリス・チェルシーフラワーショー

ハワード弘子（会員）イギリス在住



コンテナガーデン（プランターのみ 使用された庭）



おまけ。我が家の庭



◎ オンラインイベント

「インドのOCI(Overseas Citizenship of India)」について

2022年5月21日（土） 15名参加

米国在住で米国籍を取得し、日本国籍を自動喪失された会員、中西みのりさんをゲストにお迎えしてお話をうかがいました。

「OCI(Overseas Citizenship of India)」というインドの制度が、海外在住のインド人に有利な条件、海外で活躍できる理想的な機会を与えていること、そして大いにインドの国益になっていることなどをご説明していただきました。（会報誌第7号にて寄稿されています。）

米国籍を取得したインド人がインド国籍保有者と同等の権利を持ち、更にFedex, Microsoft, GAP, IBMなどのCEOとして活躍していること、米国籍取得と同時にインドの永住権を自動的に与えられるため、いつでもインドに帰国し、選挙権以外の権利を持ち、子供にも自動的に永住権が与えられる制度であることなどをご説明頂きました。国籍法11条1項で外国籍取得により日本国籍を自動喪失させられ、コロナ禍で日本への入国すらできない元日本人と、外国籍を取得して永住権が与えられるインド人の方々が大きく違う点をご指摘くださいました。今後再びこの制度について話し合いを進めて行くことを検討致します。

このイベントは「会員限定」とさせていただきました。



◎ 東日本イベント 横浜チャイナタウンでランチ

6月24日（金）14名参加

横浜中華街の老舗、萬珍樓點心舗でランチをしながら帰国中の海外のメンバーを交え、久しぶりに対面でお喋りしました。アメリカから帰国中のケリングさん、ドイツから帰国中のトルンさんはお連れ合いと、マリクさんの娘さん家族も参加してくださいました。昨年新しく入会したお二人も参加してくださいさり和やかな雰囲気でした。オンラインでは話せないことも対面では気軽に話せ、顔を合わせる大切さを実感しました。また新入会員の方たちのお話も新鮮で、会がさらに豊かになったと思います。会員の家族の参加もこのような機会でなかったらなかなかない実現できないことかと思えます。梅雨だということにかなり暑い日となりましたが、ランチ後は中華街を散策しました。

◎ 西日本イベント ～京都で親睦会～

7月15日（金）キッチン&カフェ ハリーナ 参加者7名

1100年前の平安時代、疫病を鎮めるために祈願したのが始まりという祇園祭の中、夏の京都を満喫できました。久々の対面での親睦会で子育て中の若いメンバーや新会員も参加して楽しいひと時を過ごしました。

## 編集後記

いつも会報をお読みいただきありがとうございます。

8号は、JAIFの活動にかかわる国籍法関連や社会に訴える主題は夏休みさせていただき、少し趣向を変え、会員5人の方に人生のスパイスのひとつと言われる趣味など、人生を豊かにしてくれることについてお書きいただきました。それぞれ日常生活からちょっと離れて、自分だけの世界に入れるものがあることは、私には羨ましい限りで、編集作業中、さて、私の趣味は何だろうと改めて考えてしまいました。

その他の記事、上海からは最近やっと解除になった長くて厳しいコロナ対策の外出禁止中の様子を、また心が和む食べ物の話題は北米からブルーベリーのレシピ、最後に、イギリスからお庭のお便りをお届けしました。

会報係では内容に広がりのある会報作りをめざして、皆様からの自由な投稿をいつでもお待ちしております。

[edit@kokuzaikazoku.com](mailto:edit@kokuzaikazoku.com)

ハワード弘子

次回予告 | 会報誌第9号 (2022年10月30日発行予定)

特集：●『私が平和について思うこと』



地球上のすべての人が平和を望んでいるはずなのに、今日も争いの中で大切な命が奪われています。

今回のテーマはぜひ「国際家族の一員である私」としての立場で、平和への思いを身近なエピソードを通して語っていただければと思います。

小さな想いが、小さな行動が私たちの思う平和につながっていくとしたら、どんなに嬉しい事でしょう。皆さまの希望のメッセージをお待ちしています。

締切は、**2022年9月11日(日)** ごろです。よろしくお願ひします。  
会報係新メールアドレスはこちらです。 [edit@kokuzaikazoku.com](mailto:edit@kokuzaikazoku.com)

小暮朋子、ハワード弘子、コールマンひろみ、清麻桐、カマーゴ・李栄